

DPT-IPV（4種混合ワクチン）

【ジフテリア 百日咳 破傷風 ポリオについて】

ジフテリア (Diphtheria)：ジフテリア菌の飛沫感染でおこります。のどや鼻に強い炎症を起こし高熱や犬の吠えるような咳などの症状が現れ、炎症の老廃物からできた偽膜により窒息することもあります。

また菌の毒素により心臓や神経が障害されます。DPTワクチンの導入により日本では何年も患者発生はありませんが、今後も海外から持ち込まれる可能性はあります。

百日咳 (Pertussis)：百日咳菌の飛沫感染でおこります。かぜのような症状から次第に連続した発作的な咳になり、その後息を吸うたびにヒューという笛を吹くような音がでます。夜間の悪化が多く、乳児期早期では咳が明確でないまま無呼吸発作やチアノーゼ、痙攣をみとめることがあります。肺炎や脳症の合併もあり、特に生後6カ月未満で発症すると致命的なことがあります。

破傷風 (Tetanus)：土の中にいる破傷風菌が傷口から体内に入ることにより感染します。菌の毒素により、筋肉の強直性痙攣をおこします。口が開かない、飲み込めないなどの症状から始まり、全身の痙攣をおこすようになり、死に至ることの多い感染症です。土中に菌がいるため、感染の機会はずっとあります。自然に免疫を獲得することはできません。乳幼児期にワクチンで得た免疫は大人になっても持続しており、母体が免疫をもっていることで出生時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

ポリオ (Polio) (急性灰白髄炎)：ポリオウイルスの感染でおこります。咽頭や腸で増殖したウイルスが便中に排泄され、人から人へと感染します。手足の弛緩性の麻痺がおこり、進行すると呼吸困難により死亡することもあります。日本ではワクチンの効果により30年以上発生していませんが、アフリカや東南アジアの一部では現在も流行があります。

※ポリオについては単独の不活化ワクチン (IPV) もあります。

【DPT-IPV（四種混合）ワクチンについて】不活化ワクチンです。

4回の接種で4つの疾患に対して抗体が100%得られます。百日咳に罹ったことがあるお子さんもこのワクチンを接種することができます。副反応は比較的少ないワクチンですが、接種部位の赤みや腫れ、硬結（しこり）がみられることがあります。ときに赤みが腕に広がることもあり、硬結は数カ月のこることがあります。発熱することはほとんどありません。

【接種方法】 ワクチン0.5mlを皮下に接種します。

【定期接種できる期間】 生後2か月～7歳6か月になる日の前日まで

【スケジュール】 第I期初回 3～8週の間隔で3回接種

標準的には生後2か月～12か月に達するまでの期間に接種します。

第I期追加 I期初回（3回）終了後12～18か月あけて1回接種

【接種費用】 無料（23区内の予防接種予診票を持参し、記載された有効期限内であれば公費負担）

ただし23区内の予診票を持参しないで接種、対象年齢を超えての接種、

指定医療機関以外での接種、規定の回数を超えての接種 は有料

【持参するもの】 予防接種予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。）

母子健康手帳